

いちご「スカイベリー」の品質向上技術の確立

要約

摘花(果)の有無が「スカイベリー」の果実品質や生産性に対する影響について検討した。頂花房ではすそ玉摘花(果)の5花残しと放任を比較した。着花数が供試区(摘花(果))と対照区(放任)とも5花前後と少なかったため、両区の糖度は同程度であり摘花(果)の効果は判然としなかった。一次腋花房及び二次腋花房では2花目とすそ玉摘花(果)の4花残しと放任を比較したが、一次腋花房、二次腋花房とも平均糖度、花序ごとの糖度は供試区(摘花(果))が対照区(放任)より高い傾向であった。しかし、摘花(果)をすることで生産性は供試区と比較すると20%減少した。

○ 展示のねらい

平成28年度の河内管内における「スカイベリー」は40名、5.14haの栽培が行われているが、高級ブランドとして普及拡大を図るためには、果実品質の向上が最大の課題である。

そのため、平成29年度は前年度に引き続き、食味の安定を目指し、摘花(果)方法について検討するとともに、スカイベリー導入による経営改善効果について実証した。

○ 主な成果

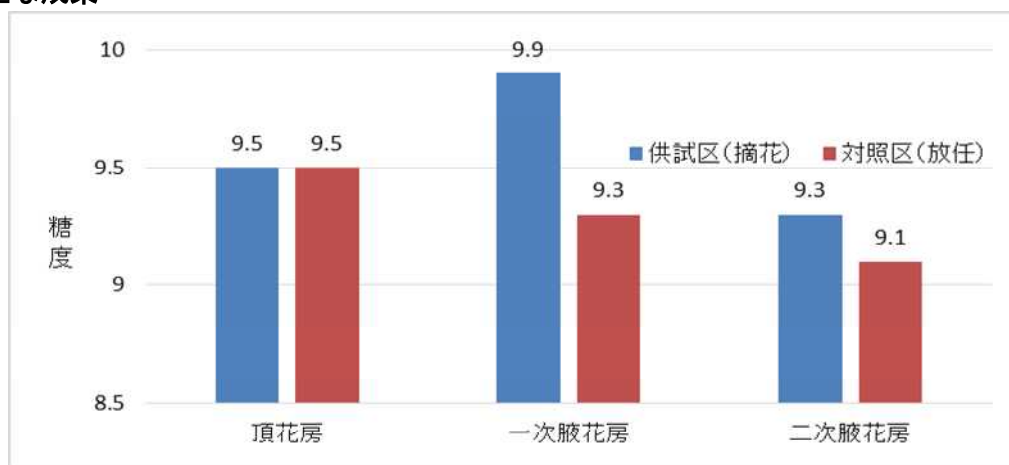


図 花房毎の平均糖度

摘花(果)をすることで糖度が向上することが確認できたが、収量性は対照区(放任)より少なかった。

「スカイベリー」を高級ブランドとして販売する上で、糖度の向上は必要不可欠である。しかし、摘花(果)作業を普及するには、収量の減少分を単価でカバーできるよう、糖度向上に対する付加価値を付けて販売し、対照区(放任)と同等以上の販売金額が達成できる販売方法の検討が必要と思われる。

○ 今後の方向性

- ・ 糖度向上及び摘花作業の簡素化を兼ね備えた摘花方法の検討
- ・ 摘花を実施した場合の販売方法の検討

実施機関：河内農業振興事務所経営普及部 実施場所：宇都宮市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315